

日本で唯一受け継がれる炎

日刀保たたら操業開始

一月二十二日、たたら製鉄技術の保存継承と日本刀の原材料となる玉鋼の生産を行っている鳥上地区の「日刀保たたら」において、三昼夜に及ぶ作業の今年最初の操業となる火入れ式が行われました。

神事には、(公財)日本美術刀剣保存協会、日立金属安来製作所、靖国神社などの関係者約三十人が出席し、操業の安全と成功を祈願しました。日立金属安来製作所の佐坂克郎代表取締役から「先民の知恵と技術、経験、職人の精神力がこれからのものづくりには大事」、また井上町長からは「たたら製鉄及び棚田の文化的景観が中国地方で初の重要な文化的景観として選定があり、今後もこの誇りを次世代につないでいきたい」とそれぞれあいさつがありました。



▲燃え上がる炉に砂鉄を入れる木原村下

この後、村下を含む十二人の職人の手により、三昼夜を通して砂鉄十ト、木炭十二トを三十分ごとに少しずつ投入。三日後の早朝には三トの鋼の塊である「鋸」が取り出され、鋼造りにおいて八種類の玉鋼二・三トを製品とし、このうち最上質な玉鋼は約六百キになります。

神事の後、国選定保存技術者で村下の木原明さんと渡部勝彦さんにより、「初種」と呼ばれる今年最初の砂鉄四キが炎の吹きあがる粘土製の炉にくべられました。

木原村下は「日本で唯一、千年以上にわたり伝統技術と精神を継承していることを誇りに、後継者一丸となって最高の物を作りたい」と操業に懸ける熱い思いを語りました。

福澤監督は、大ヒットドラマ「半沢直樹」をはじめ「金八先生」「華麗なる一族」など多くのヒット作を手掛けた日本を代表するテレビドラマディレクター、映画監督。平成十六年のドラマ「砂の器」、平成二十年東宝映画「私は貝になりたい」、平成二十二年のドラマ「99年の愛



「JAPANESE AMERICAN」でも奥出雲町を舞台に撮影されていた。町内ロケは糸原家、大原新田(馬木)で行われ、主演の佐藤浩市さん、山口智子さん、宮沢りえさん、伊東四朗さんなどの俳優陣、福澤監督をはじめ約七十人の撮影スタッフが訪れました。また、エキストラとして約五十人の町民などが出演。昭和初期の衣装に身を包み、スタッフから細かい指示を受け、緊張した面持ちで撮影に挑んでいました。

福澤監督、奥出雲の魅力語る
二月十一日、カルチャープラザ仁多において、「奥出雲・雲南の魅力語る」と題した福澤監督の講演会が行われました。
講演では、福澤監督の生い立ちからドラマ制作の裏話や苦労話、作品作りに対するこだわりなどをユーモアたっぷりに話されました。
また、ロケなどで全国各地を訪れている監督は奥出雲の大ファンで、「地元の人には奥出雲の素晴らしさに気づいていない。日本の中でも奥出雲の田舎風景はとてきれいで住んでいる人の品も良い。料理もおいしい。たたら御三家の歴史もすごい。奥出雲は宝物のまち。」と大絶賛。町内外から約二百人が訪れた会場は、大いに盛り上がりました。



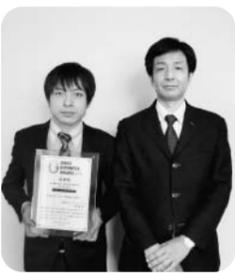
▲熱く語る福澤監督

「有エヌ・イー・ワークス」ものづくり部門最高賞

「第一回グッド・ビジネス・アワード」のものづくり部門で、(有)エヌ・イー・ワークスが最高賞を受賞されました。

この賞は、中小企業・小規模事業者を支援する中小企業庁のサイト「ミラサポ」が、全国からビジネスアイデアを募り実現をサポートする企画「安心」「食」「ものづくり」「おもてなし」「学び」の五つのテーマに、全国から百七十六件の応募が寄せられました。

世界でも珍しいドライ・エディブルフラワー(乾燥押し花)事業について発表。花の栽培や加工を地元の高齢者や主婦に委託し雇用場を作っていること、田舎の良さを生かし地域と共に発展を目指す取り組みなどが高く評価されました。



▲三澤誠代表取締役社長(右)と八澤豊幸第三製造部課長(左)

大石巨太さん(亀嵩) 最優秀賞



山陰で新たなビジネスプランや事業に取り組み起業家を表彰する「第一回ごうぎん起業家大賞」で、大石巨太さん(亀嵩)が最優秀賞を受賞されました。

この賞は、山陰における起業・創業を促し、事業化や成長を支援していくことで地域活性化を手助けすることを目的に山陰合同銀行が主催。第一回には百六件の応募があり、大石さんのほか三件が最優秀賞に選ばれました。

大石さんは、尾原ダム残土処分場を利用して放牧酪農事業に挑戦。放牧向きのブラウンスイス牛を放牧し、ダムの見える牧場としてダム湖周辺の景観づくりと観光地化、また小学校の課外活動と連携した食育の場となることを目指しておられます。

守り 創り 育てよう ふるさと鳥根の景観

「舌震の」恋「吊橋」がしまね景観奨励賞
魅力ある鳥根の景観づくりに貢献しているまちなみや建造物等を表彰する「しまね景観賞」。

第二十一回目の今回は、県内から百六十六件の応募があり、奥出雲町から「舌震の」恋「吊橋」が奨励賞を受賞しました。

「舌震の」恋「吊橋」は昨年十月に鬼の舌震に誕生した新名所。吊り橋特有の曲線美

と落ち着いた色合いが、周辺の樹木によく溶け込んでいます。
また、吊り橋から眺める渓谷は絶景で、小さな子どもから高齢者まで安心して渡れるよう、バリアフリーの遊歩道につながり、安全面にも十分配慮されています。
今回の受賞で、さらに多くの観光客が訪れることが期待されます。



▲受賞した「舌震の」恋「吊橋」

「鳥根ふるさとフェア」で奥出雲町をPR

鳥根の魅力を広島へ伝える「鳥根ふるさとフェア2014」が一月十八、十九日の二日間、広島市中区の県立総合体育館を主会場に開催されました。

十七回目となる今回は「ご縁の国しまねのおもてなし」をテーマに、手打ちそばがその場で食べられる「しまねそば街道」や「しまねまるごと特産市」、「しまねあつあつ屋台村」、郷土芸能の神楽などを披露する「しまねふる

さとステージ」など、趣向を凝らしたコーナーや企画が多数あり、多くの人で賑わいました。
奥出雲町からは七団体が参加し、椎茸や舞茸、米などの特産品をはじめ和菓子、酒などが出品され、商品を求めるお客の長い行列ができ、会場内でも特に賑わいを見せていました。
二日間で約十八万人を超える来場者があり、奥出雲の魅力を十分にPRしました。



▶ たくさんのお客さんで賑わう会場